

令和4年
4月開設

京都府デジタル学習支援センター

デジタルコンテンツ配信×リーダー教員の育成×学校のサポート

国のGIGAスクール構想により、小中学校や特別支援学校等では既に児童生徒の一人一台端末の環境が整い、府立高校においても、今年度入学生から一人一台端末を使った授業がスタートしています。

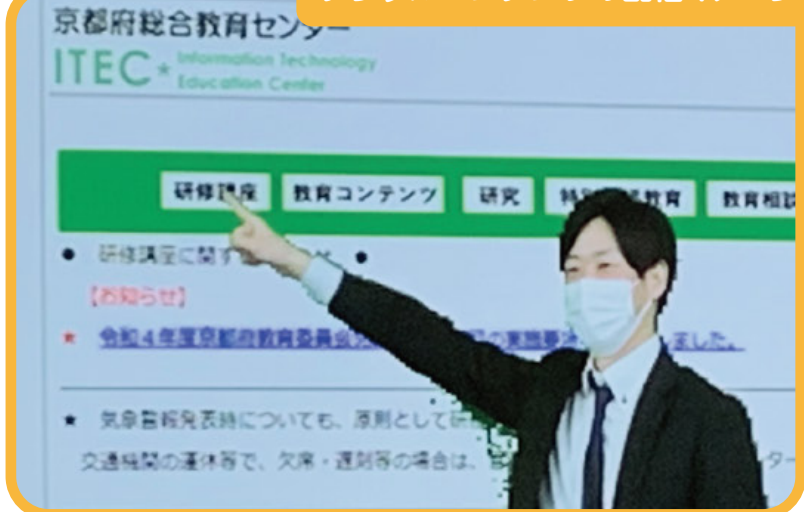
京都府教育委員会では、「第2期京都府教育振興プラン」において、ICT教育の充実を掲げて施策を進めており、ICTを活用した学習支援と人材育成を一元的に行う拠点として「京都府デジタル学習支援センター」を開設しました。

京都府デジタル学習支援センターでは、「京都まなびスタジオ」を整備し、遠隔授業やデジタル教材の配信、学校休業等の緊急時にも活用できる補助用動画教材の作成など、デジタルを活用した学習支援が可能となりました。

ICT教育のリーダーとなる先生を育成するための研修や、ICTを活用した学習の事例、授業アイデア等デジタルコンテンツの配信など、ICT活用指導能力向上のための支援を行います。

学校のデジタル学習の困りごとにもサポートを行うなど、幅広い取組を通してICTを基盤とした教育を充実させ、子どもたち一人一人に応じた個別最適な学び、協働的な学びを進めていきます。

デジタルコンテンツの配信イメージ



制作の様子

ひとりで悩まないで！

不登校、いじめ、友人関係、学習等の学校生活のことや、家庭内での気かりな行動等、お子さんの教育や子育てについての相談を受け付けています。

電話教育相談

ふれあい・
すこやかテレフォン
(24時間受付)

075-612-3268
または 3301
0773-43-0390

メール教育相談

「メール教育相談 京都」で検索
してください。携帯電話からも
相談できます。

※携帯電話の
場合、受信拒否
設定を解除し
てください。

① ネットいじめ通報サイト

ネット上で
いじめを発見
したら通報し
てください。

② 体罰専用電話

075-612-5013
(毎週水曜日 11:30～18:30)

来所教育相談

京都府総合教育センター(伏見
区)及び北部研修所(綾部市)で、
臨床心理士、精神科医などが直
接会ってお話をうかがいます。

巡回教育相談

お住まいの近くの教育局など
に臨床心理士などが出向き、
直接会ってお話をうかがいま
す。

来所・巡回教育相談の

お申込みは、「ふれあい・
すこやかテレフォン」に
お電話ください。

家計が急変した世帯の 高校生などへの支援

失業や休業などにより収入が減り家計が急変した場合、修学資金の貸付をいつでも申請することができます。修学資金を返還している場合は、返還の猶予(返還の先延ばし)ができます。

また、失業などにより保護者など(親権者全員)の住民税所得割が非課税相当となった場合、返済の必要のない給付金の申請ができます。

詳細は、ホームページをご覧ください。お問い合わせください。

高等教育課修学支援係 TEL:075-574-7518

修学支援事業ホームページ →



府教委広報

きょうとふの 教育

No.150
令和4年度夏号

令和4年6月1日に前川明範教育長が就任しました。

＜教育への思い＞

子どもは「宝」であり、未来の社会を創っていく存在です。子どもたちが京都で学べてよかったと思える教育を進めていきたいと考えています。

また、教育は人と人との交流、関わりの中で生まれていくものです。社会が大きく変化する中、変化に対応しつつ、子どもたちの心や学びの状況をしっかり感じとり、一人一人を大切にしていける教育を進めることが大切だと考えています。

＜重点的に取り組むこと＞

まず、国のGIGAスクール構想等により小中学校等で一人一台端末環境が整備される中、こうしたICT機器を効果的に活用した教育活動を充実し、子どもたち一人一人の可能性を引き出す、個別最適な学びの実現に向け、市町教育委員会と連携を密にしながら、積極的に取り組みたいと考えています。

府立学校については、少子化や教育ニーズが多様化する中、各学校の使命を明確にし、それぞれの強みを生かした学校間連携や地域、企業、大学等との連携を更に進め、魅力化を図るとともに、時代に応じた制度構築に取り組みたいと考えています。

また、長引くコロナ禍が、子どもたちにも影響を及ぼしていることが指摘されており、これまでから取り組んでいるいじめ問題や子どもの貧困対策、ヤングケアラーの問題などへの対応を継続してしっかり取組を進めていきます。

＜大切にしたい視点＞

広い視野と長期的な展望をもち物事を見ていくことです。

教育も社会の動きと無関係ではなく、教育の課題が複雑、多様化していることから、教育を学校や教育委員会だけで捉えるのではなく、家庭、地域の方々など様々な関係機関と連携、協働しながら、幅広い視点をもち、課題解決にアプローチしていきたいと思っています。



＜特集＞

府立高校の魅力～未来を切り拓く力～
京都府デジタル学習支援センターが始動
シリーズ人権
教育相談
修・就学支援

発行：京都府教育委員会

編集：京都府教育庁管理部総務企画課

電話：075-414-5710

URL：http://www.kyoto-be.ne.jp/



やりたい！行きたい！ 楽しい！を見つける・かなえる 府立高校

府立高校にはまだ知られていない魅力的な取組がたくさんあります!!

府立高校48校は、互いにつながり高めあう府立高校の強みを活かしつつ、京都にある教育資源を有効に活用した特色ある取組を推進し、生徒の個性や能力を最大限に伸ばす教育実践に取り組んでいます。変化を前向きにとらえ、自分の力で考え、未来を切り拓く力を持った人を育てるため、これからも府立高校の魅力化を進めていきます。



対面×オンライン「府立高校ハイブリッド型英語研修」

海外留学が難しい状況の中、英語力の向上や異文化理解を図るため、府立高校生を対象に対面とオンラインのハイブリッドによる英語研修を実施しています。

将来、海外留学や海外で働くなど国際社会で活躍できるグローバル人材の育成に取り組んでいます。

どんな内容なの？

- ✓ プレゼンテーション・ディベートスキル向上のための実践的学習や外国人留学生・海外の大学生との対面×オンライン交流など、充実したオールイングリッシュの研修です。
- ✓ 生徒の英語力やニーズに合わせて「英語力向上研修コース」と「バーチャル異文化交流コース」のどちらかを選択することができます。



「英語をもっと勉強したくなった。」
など多くの生徒から好評です。

大学と
つながる

大学レベルの講義が受けられる「スマートAP」

「スマートAP（アドバンスト・プレイスメント）」は大学との協働による高度で先進的な学びのプログラムです。

府立高校共通履習科目であり、志を共有する仲間と学校の枠を超えて学び合うことで交流の輪が広がります。

どんな内容なの？

- ✓ 複数の大学の先生方による全7回のリレー講義・ワークショップを受講し、大学レベルの知の探究に必要なリサーチスキルを学びます。
- ✓ グローバル人材の基盤となる論理的・批判的な思考力と多文化協働力を育みます。
- ✓ タブレット端末を活用して、主に自宅からオンラインで授業を受け、高校での単位も認定します。



※令和4年度は6校（鳥羽・福知山・嵯峨野・洛北・南陽・峰山）において希望者を対象に実施
※アドバンスト・プレイスメント・・・先取り履修

自分の興味がある学校を探すには・・・

Myスクールナビ京都

検索



自ら探し学ぶ防災教育

京都で唯一の防災カリキュラムを取り入れている東稜高校のキャリアコースライフマネジメントクラスでは、地域の小・中学校や自主防災会などと連携した授業を行い、防災訓練を生徒自らが企画・運営するなど、積極的な「ぼうさい普及活動」を実践しています。

たとえば・・・

- ✓ 地域住民の意見を聞いて、避難所設営動画づくりにチャレンジ
- ✓ 動画教材、ICTを活用した配信活動にチャレンジ
「防災ジャーナル「マネ知識」の配信・小学校への出前授業(オンライン)」
- ✓ 歴史防災教訓学にチャレンジ
「過去の京都の災害を探究的に学ぶ、地域の歴史と災害を結びつけた活動」

2021年度
防災教育チャレンジプラン
『防災教育大賞』受賞



企業と
つながる

身に付けた確かな技能で新たな未来を創り出す

工業高校の5つの学科では、工業の専門科目や普通科目での学びに加え、コミュニケーション能力やビジネスマナー等を身に付け、進路先で求められる資質・能力をバランス良く向上させます。

ロボット技術科では、地域連携の一環で地元企業から依頼を受け、「製作行程で材料や製品を自動運搬する装置」の開発・設計・製作を行いました。

どんなことを学ぶの？

- ✓ 金属加工を主体とした「ものづくり」で将来の技術者を育成
- ✓ 生活には欠かせない電気について学び、ライフラインの匠を目指す
- ✓ 国家検定である技能検定や難易度の高い資格の取得を目指す
- ✓ 「動・光・音」機能あふれるロボットの設計や自動制御技術を学ぶ
- ✓ IoT社会に貢献できる通信・制御・環境・電子について学ぶ
- ✓ プログラミングやネットワーク、ハードウェアなど様々な技術を学ぶ



シリーズ人権



本や映画をとおして差別を考える ～全国水平社創立から100周年～



父親がハンセン病患者で、村を親子で追われる少年が、やがて音楽家に…。自分の生まれた地域を隠して生活をし、やがて小学校の先生になる青年…。それぞれが登場する作品をご存知ですか？前者は松本清張の『砂の器』、後者が今年の夏、映画にもなる島崎藤村の『破戒』です。本や映画の背景には、フィクションであっても、その時代の背景が反映されています。自分の生まれてきたルーツで、その後の人生が制限されてしまう時代があったことを、私たちは作品をとおして知ることができます。

今年は、全国水平社創立100周年の年。自分ならどうするか、どんな思いをするか、誰もが自分らしく生きることが
できる社会を創るために何ができるか——本や映画に触れることで考えてみませんか？